

「標準外科学 改訂第4版」

新潟大学教授 武 藤 輝 一 編集
元杏林大学教授 相 馬 智

熊本大学教授
赤 木 正 信

医学部の各専門講座が担当する臨床医学の現状を、学生諸君にいかによく理解させるかということは決して容易ではない。しかも upto-date に進歩する医学研究の成果を、臨床教育の場に織り込んで学生に知らしめることは一層困難である。

しかし、このような臨床医学の現状を医学生に広く理解せしめておくことは、医学生自身の将来の発展のためにも非常に重要なことで、教育する立場の者が最も真剣に考慮するところである。

このような医学教育におけるい

ろんな課題を踏まえたうえで、最近の知見を加えて学生向けにまとめられたものの1つとして、武藤輝一教授、相馬智教授編著の「標準外科学」を挙げることができる。

この本を読んでいてまず感じることは、非常に読みやすいことである。読みやすいということは理解しやすいということでもある。

また、必要に応じて図解が挿入されて、その内容を一層わかりやすいものとしている。しかも、これらの内容が医師国家試験出題基準を考慮に入れて組んであることも、現在の

医学生諸君にとっては好都合である。

私自身がこの一冊に最も畏敬を感じさせられたことは、臨床医学の進歩の中にみられる新しい感覚と内容で、特に最近の小児外科、外科と免疫、臓器移植、ME および人工臓器などについても明解に書き込まれている点で、今後の外科の趨勢とそれを推進して行くであろう学徒への夢も托されているように思われる。

このようなすばらしい内容に編集されていることは、この本の著者らが学生の教育と外科学の将来とを常に考えておられる優れた教育者であることを物語っている。

年々、内容を増加して膨らんでいく現在の外科学を要領よくまとめたこの一冊の本は、医学徒の日常の勉強に常に携帯するに値するものとして推奨できる。

B5判 772頁 図471 1985

¥7,000 円400

医学書院 刊